

ダウン症児・者にダンス活動が及ぼす影響について

川上 竜馬 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)
指導教員 金田 安正

キーワード：ダウン症, ダンス, コミュニケーション

1. 緒言

妊婦の血液で胎児のダウン症など3種類の染色体異常を調べる新しい出生前診断が、2013年の3月以降から検査が開始される見通しになった。しかし、指針案では妊婦の血液で検査できるという簡便さだけで広がると、ダウン症などの出生の排除や生命の否定につながる危うさを秘めると指摘されている。この出生前診断が多くの議論をよんでいる。このことによって、ダウン症に対して社会の注目が集まっている。その中でダウン症児・者のダンス活動については、2010年には日本テレビの「24時間テレビ」の中で「AKB48 ダウン症の少女たち100人とダンスに挑戦」で取り上げられるなどして注目されている。

本研究では、ダウン症児・者にダンス活動がどういった影響を及ぼすのかを調べることを目的とする。そのために、過去の文献からダンス活動の特徴や効果を調査し、ダウン症の特徴や運動能力などに影響を及ぼすか研究する。

2. 研究方法

Google Scholar, CiNii Articles などの論文検索サイトの中から知的障害、特にダウン症児・者とダンス、運動に関する文献を集めたところ、大別して次の3つに領域に分けることができた。次に3つの領域ごとに紹介するとともにそれらの内容をまとめる。1) 音楽と動きが知的障害児・者に及ぼす影響について。2) ダウン症児・者の特徴について。3) 知的障害児・者のスポーツ環境について。

3. 結果と考察

1) 音楽と動きが知的障害児・者に及ぼす影響について

知的障害児・者は、音楽を使った運動には多くが興味を示す。さらに、コミュニケーション能力の発展には言葉と音楽の相互作用が大きく働くことがわかった。また、ダンスを多くの人とすることによって、多くの交流が生まれダンス活動を楽しく

感じるのではないかと考えられる。

2) ダウン症児・者の特徴について

ダウン症児の母親は、子どもの自立を強く望んでおり、そのためには、家庭以外の場所で過ごすことが子どもの自立を促すので、スポーツ団体に参加することは自立につながるのではないかと考えられる。

3) 知的障害児・者のスポーツ環境について

知的障害児・者の抱える問題の1つとして、子どもの余暇を充実させたくても、その方策を見つけれないことである。このことから、知的障害児は、受身的に目的のないまま、時間を過ごしてしまっているという実態が指摘されている。受身的姿勢を自発的に行動できるように余暇を充実させるためにも、障害児・者スポーツをする環境が整っていないことが課題である。

4. まとめ

本研究では、最初から複雑な振り付けを教えるのではなく、個性を重視した自由なダンスや簡単な振り付けから始めることによって、ダウン症児・者が身体を動かすことの楽しさを感じ、意欲的、継続的に参加することがわかった。しかし、まだダウン症児・者がダンス活動をする場合は少なく環境がないことやダウン症児・者は親のサポートが十分受けられなければ活動を続けていくことは困難になる。今後は、環境の整備やサポートの強化が課題といえる。

参考文献

芽野理子(2012) 知的障害教育におけるダンスプログラムの実践事例. 宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要. 35巻. 181-188.

伊麗斯克・菅野敦(2012) ダウン症児・者の「対人関係」に関する文献研究：研究動向と先行研究の分析を踏まえて. 東京学芸大学紀要. 63巻 2号. 263-275.